

●三位一体主日

泉のほとり

今月の詩編「第百十三編」

わたしたちの神、

主に並ぶものがあるうか。

主は御座を高く置き

なお、低く下つて天と地を御覧になる。



真理の霊が悟らせること

ペンテコステ(聖霊降臨日)は「50日目」という意味であり、旧約聖書に定められた「七週祭」のことです。過越祭が終わる安息日の翌日から数えて50日目にあたり、過越祭のいけにえとして屠られた主が復活されたイースター(4月5日)から、先週のペンテコステがその50日目です。旧約聖書の正確な時に従って主の死と復活、聖霊降臨が行われた神の御業に驚くばかりです。

「過越祭」に御子はご自身の血と肉が裂かれる苦難を通られました。ペンテコステはそれらの御業を通して私たちに許された恵みであり、深く記憶すべき重要な意義を持つています。

十字架の死を目前に控えた夜、主イエスは弟子たちに、「わたしが去つて行かなければ、弁護者は来ない。わたしが行けば、弁護者を送る」と予告されました。ご自分が十字架と死を通つて天の父のもとへ行かれることが、弟子たちの「ためになる」と言われたのです。主イエスは、十字架による贖いのみならず、弟子たちが聖霊を受けられるようにとの時を見据えて備えてくださいました。人を思うわが主の御心の深さには、驚きと感謝のほかありません。

主は聖霊が来られると、第一に「罪、義、裁きについて、世の誤りを明らかにする」と告げられました。今はまだ理解できない弟子たちを真理に導き、隠された事柄を明らかにしてくださいさるのです。しかし、真理の霊もその働きも目には見えません。それゆえに、自分の強い確信を安易に「聖霊の声だ」と言うことには恐れを持たねばなりません。聖霊のお働きは一時の思いではなく、人を内側から根本的に新しく変化させるものだからです。

この「罪、義、裁きについて世をあらわにする」お働きは、生まれ変わった人の内側の変化に伴うものです。ヨハネ福音書20章では、復活の主が弟子たちに息を吹きかけ、「聖霊

を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば赦される」と言われた出来事が伝わっています。これは、各自が「自分の義」の眼差しで判断し、その權威を一人歩きさせてよいという話ではありません。聖霊が私たちをキリストのように非のうちのころのない者へと造り変え、主と同じように罪の赦しを宣言できる者へと導いてくださるということです。

神の前、大祭司となられた主イエスが、なお自らをいけにえとしてさげられ、人の罪について、神の義が行われ、罪の赦しが宣言されました。聖霊はそのキリストの恵みを私たちの心に証ししてくださいます。この証しを受け、自らが受けた罪の赦しと神の義を深く知る者でなければ、誰が罪や義について正しく判断できるでしょうか。

ペンテコステから約2000年が経つた今、世界の教会に、聖霊が降臨された日から2000年ほど経つた今、聖霊による働きの実が現れているのか。教会は罪について、裁きについて、明白に見ているのか。「私」の内側には聖霊のお働きが豊かに実を結んでいるのか、私には罪について、義について、裁きについて、私が赦せば神も赦し、私が赦さなければキリストもそう思うほどの実質の「力」が表れているのか。聖霊の時代と言われるこの時代、聖霊のお働きを大いに受けて、聖霊の結ばせてくださる豊かな実を結ぶ、その私のあり方こそ最高のペンテコステの感謝の表し方です。

そのために、私自身の現状を加減なく直視することはとても重要です。「人を裁くな」「まず自分の目の中にある丸太を取り除きなさい」という主の教えに耳を傾けねばならない現状かもしれません。しかし落胆してはなりません。聖霊はまず、私自身の中にある罪に気づかせ、向き合うように導いてくださいます。そのお働きに素直に応答するとき、真理の光に照らされた心は全く闇のないものとされ、ゆくゆくは私たちが「世を照らす光」としてくださるのです。この恵みを存分に受け、日々新しくされていき、最高の感謝と賛美を神にささげていきたいと思えます。(ヨハネ一六章五〜一五節黄允湜牧師)

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《2026年度

教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体としての一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○現在、二〇二六年度の教会員名簿を作成して
います。ご住所やお電話番号などのご連絡先
に変更がある方は、お手数ですが、教会事務
所までお知らせくださいませようお願ひ申し
上げます。すでにお知らせくださった方は改
めてのご連絡は不要です。

○本日、吉村和雄名誉牧師は日本基督教団清水
教会の礼拝での奉仕と、東海教区中静分区の
信徒修養会で講演のため出張です。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会を第二・三シオンルームで
行います。

《祈りの会より》

本日、「祈りの会」を二時三〇分開始予定
にて第二・三シオンルームで行います。

《コイノニアキャンプ

実行委員会からお知らせ》

礼拝後、二〇二七年の夏に開催が予定されているコイノ
ニアキャンプに向けたミーティングをカナシオンルームで行い
ます。関係者の方はご参加ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和
します。

【詩篇百十三篇】賛歌。

ハレルヤ。主の僕らよ、主を賛美せよ

主の御名を賛美せよ。

今よりとこしえに

主の御名がたえられるように。

日の昇るところから日の沈むところまで

主の御名が賛美されるように。

主はすべての国を超えて高くいまし

主の栄光は天を超えて輝く。

わたしたちの神、主に並ぶものがあるうか。

主は御座を高く置き

なお、低く下って天と地を御覧になる。

弱い者を塵の中から起こし

乏しい者を芥の中から高く上げ

自由な人々の列に

民の自由な人々の列に返してください。

〔司・会〕

子のない女を家に返し

子を持つ母の喜びを与えてくださる。

ハレルヤ。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「神と人々に愛された」

聖書 ルカ2章41〜52節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「新しい時代の始まり」

聖書 マタイ3章13〜17節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

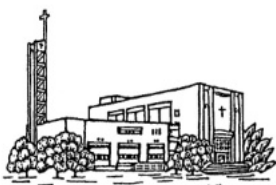
●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讚美歌 67番 515番

説教 「あなたが罪に陥らないように」

聖書 出エジプト20章18〜21節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 66番 336番
説教 「隣人の家を欲してはならない」
聖書 出エジプト20章17節(旧約P.126)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜牧師
説教者 黄允湜牧師

前奏曲「いと高きにある神にのみ栄光あれ」J.S.バッハ

○讃美歌66番

1. 聖なる 聖なる 聖なるかな
三つにいまして一つなる
神の御名をばあさまだき
おきいでてこそほめまつれ
2. 聖なる 聖なる 聖なるかな
神のみまえに 聖徒らも
かむりをすてて ふしおがみ
みつかいたちも み名をほむ
3. 聖なる 聖なる 聖なるかな
罪ある目には見えねども
みいつくしみの満ちたれる
神のさかえぞたぐいなき
4. 聖なる 聖なる 聖なるかな
み手のわざなるものみなほ
三つにいまして一つなる
神の大御名 ほめ奉らん アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○讃美歌336番

1. 主イエスよ 十字架を み手より受けて
われは世のほまれ むなしき望み
棄つとも惜しまじただ主によりて
みかみの国をば得るぞうれしき
2. わが身のたのしみ わがもつたから
ことごとこの世は うばい去るとも
われはかなしまじただ主によりて
みかみの富をばうるぞうれしき
3. われはめぐみより さかえにすすみ
のぞみはまことにいのりはうたに
やがてかわりゆかんただ主によりて
みかみの愛をばうるぞうれしき

アーメン

聖餐曲「主はわが飼い主」(詩篇23編による) D. ヴット

後奏曲「アルビノーニ氏による協奏曲」J.G. ヴァルター